

近松作品の舞台を訪ねるコース

今はなき蜷川と道行の足跡

現在の新地本通の南側に沿って、明治末期まで蜷川(曾根崎川)が流れていました。元禄期、この川を舞台に大当たりをとったのが、近松門左衛門の『曾根崎心中』と『心中天網島』。悲恋の旅路はいかに。都心のまちなかで道行の情景を想像してみましょう。

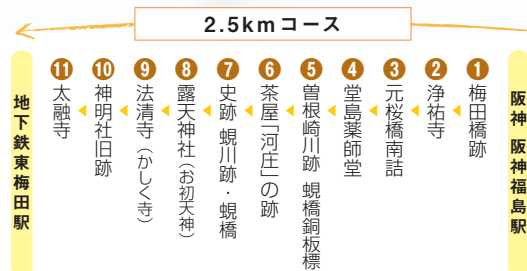
道行ルート

『曾根崎心中』(1703年)

堂島新地天満屋の遊女・お初と内本町の醤油商平野屋の手代・徳兵衛。堂島の天満屋から梅田橋を渡って北東へ。梅田墓、曾根崎村を抜けて露天神の森で心中。

『心中天網島』(1720年)

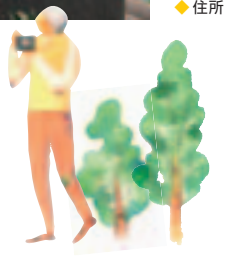
曾根崎新地紀伊国屋の遊女・小春と天満の紙屋治兵衛の死の道筋は「名残の橋尽し」で有名。梅田橋、緑橋、桜橋、蜷川橋、大江橋、難波小橋、船入橋、天神橋などを眺めたり渡ったりしながら、網島の大長寺(都島区)で心中。



2 浄祐寺

曾根崎新地で武士に切り殺された遊女・菊野ら5人の墓、「五大力の墓」があります。事件は歌舞伎「五大力恋緋(ごだりきこいのふうじめ)」(並木五郎作)になり大ヒット。また、父の遺志を継ぎ、17歳で赤穂浪士の討ち入りに参加した矢頭右衛門七(やとゑしち)と父親の墓もあります。

◆住所: 堂島3丁目3の5



4 堂島薬師堂

推古天皇の時代からこの地にあり、「堂島」の名前の由来にもなったという由緒ある薬師堂です。平成11年(1999)、三角形の反射ガラスを組み合わせた、キラキラ光るお堂に生まれ変わりました。月2度の法要と節分お水汲み祭りのときは、奈良・薬師寺の僧侶がお経を唱えます。

◆住所: 堂島1丁目6の20

1 梅田橋跡

お初・徳兵衛は梅田橋を「かささぎ橋」に見立て、冥土の道行の最初に渡りました。梅田橋は梅田墓への通路となっていて、蜷川でいちばん初めに架けられました。お初がいた遊女屋の天満屋はこの近くにあり、梅田橋界限は新地で最もにぎわっていた場所でした。現在では「梅田橋ビル」がわずかにその名を残しています。

◆住所: 堂島3丁目 堂島3の交差点から NTT堂島ビル付近

3 元桜橋南詰

『心中天網島』「名残の橋尽し」に「別れを嘆き、悲しみて、後にこがる桜橋」と書かれた桜橋は、現在の桜橋交差点より南の位置にありました。

◆住所: 曾根崎新地 1丁目3の16 京富ビル(サンマルクカフェ)前

Start



ほうせいじ
9 法清寺 (かしく寺)

酒乱で事件を起こし、処刑された遊女・かしくの墓があります。禁酒できるという風評が立ち、お酒に悩む人々のお参りが絶えません。かしくの事件も浄瑠璃や芝居になっています。

◆住所：曾根崎1丁目2の19



新地本通でもう一つの楽しみ
文化銘板

study



300年以上の歴史と文化をもつ北新地。その文化遺産を図版と解説で現したパネル(文化銘板)が、新地本通に10基設置されています。先端技術でつくられたパネルは見ごたえ十分。北新地を愛する人たちの心意気が伝わります。「心中天網島」や「曾根崎心中」のパネルもあるので、是非ご覧ください。



しんめいしやきゆうせき
10 神明社旧跡

「神明社」とは天照大神(あまてらすおおみかみ)を祭神とする神社。社殿が西向きだったので「夕日の神明」と呼ばれました。朝日の神明(神崎町[現在は春日出])、日中(ひなか)の神明(内平野町)とともに大坂三神明として有名でした。明治43年(1910)、露天神社に合祀。当時、大坂三十三か所観音巡りの第三番札所でした。

◆住所：曾根崎1丁目6



たいゆうじ
11 太融寺

Goal

『曾根崎心中』の冒頭は、お初が大坂三十三か所観音巡りをする場面。お初は第一番札所の太融寺を起点として三十三か所を巡ります。物語の最後は、その功德でお初はきっと成仏できると結ばれています。

太融寺の開基は弘法大師。境内には淀殿の墓をはじめ、横綱玉の海正洋の碑、芭蕉白菊句碑など、興味深い史跡が数々あります。ご利益の評判が高い不動明王へのお参りもお忘れなく。

◆住所：太融寺町3の7



◀ 淀殿の墓

study

蜷川と橋

(弘化2年(1845)当時)



(弘化改正大坂細見図)



そねざきがわあと
5 曾根崎川跡
しじみばしとうはひょう
蜷橋銅板標

曾根崎川は元禄初期、治水の専門家・河村瑞賢が改修。延長2.26km。南側に堂島新地、北側に曾根崎新地が開かれ、にぎやかな遊所でした。蜷川は曾根崎川の別名。『心中天網島』の橋の名を巧みに取り入れた名文、「名残の橋尽し」で、蜷川は広く知られるように。明治42年(1909)の北の大火のあと瓦礫に埋まり、東側は3年後に、西側は大正13年(1924)に埋め立てられ、幻の川となりました。

◆住所：曾根崎新地1丁目5

しせきしじみがわあと しじみばし
7 史跡蜷川跡・蜷橋

碑は建物の角にぴったり埋め込まれています。右面に「史跡蜷川跡」、左面に「しじみばし」。蜷橋は、梅新南の交差点から少し南の位置に架かっていたようです。

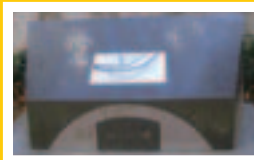
幕末、新撰組と大坂相撲の力士が乱闘事件を起こしたのは、この橋です。

◆住所：曾根崎新地1丁目1の49 滋賀銀行



船入橋碑 ◆住所：西天満2丁目

『心中天網島』に「大江橋あれ見や、難波小橋から、舟入橋の浜ひび」とある船入橋は、鍋島藩蔵屋敷の入堀に架けられていたもの。小春と治兵衛はここを経て天神橋を南に渡り、網島へ向かうのです。



つゆてんじんじゃ はつてんじん
8 露天神社 (お初天神)

『曾根崎心中』は元禄16年(1703)、実際にあった心中事件が題材になっています。お初と徳兵衛は松とシュロの木に体を縛りつけ、最期をとげます。当時、2人をまねて心中が相次ぎ、禁止令が出るほどでした。

◆住所：曾根崎2丁目5の4



ちやや かわしやう あと
6 茶屋「河庄」の跡

黒御影石に『心中天網島』の一節が刻まれています。「河庄」は小春がよく呼ばれた茶屋で、文楽や歌舞伎では人気の場面です。

◆住所：曾根崎新地1丁目6の13

▼お初・徳兵衛のブロンズ像

